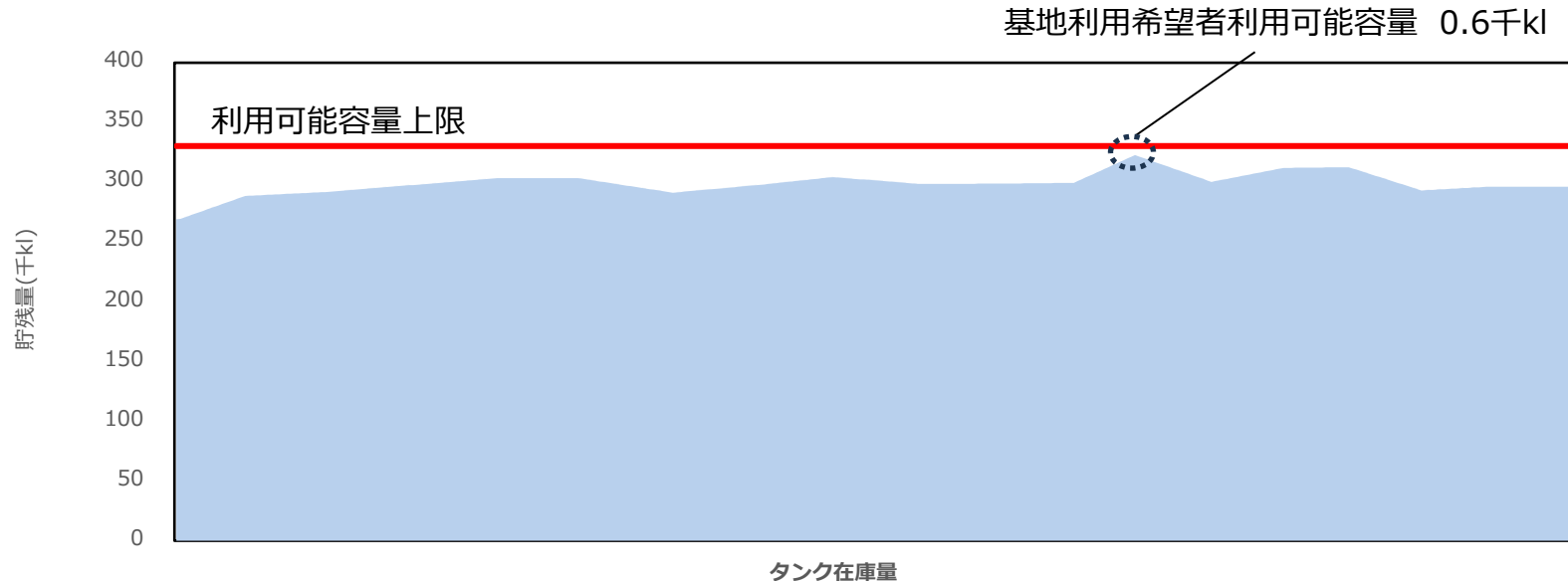


液化ガス貯蔵設備の容量等の公表

1. 液化ガス貯蔵設備における液化ガスの貯蔵の余力の見通し（2027年度）

タンク能力：338千kL



袖師基地では、

ルームレント方式の場合、0.6千kL（容量ベース）

ルームシェア方式の場合、120千kL（受入量ベース）となる見込みです。

なお、これ以外の条件においてもご利用が可能な場合がございます。詳細につきましてはお問合せ下さい。

利用可能容量・受入量の算定条件

- ・基地利用希望者の利用可能容量は、当社等の小売部門等のLNGの受入状況、都市ガスの需要動向、定期または予定外の整備工事、基地利用者の利用状況等により変動することがあります。
- ・ルームシェア方式における受入量を1隻あたり120千kL（発熱量44.0MJ/Nm³）とし、年度開始時より払出を開始し、年度終了時にLNG在庫が0となるように一定の割合で払い出した場合の結果となります。また、基地利用者が当社等からLNGを借受け、当社等が指定した入船日にLNG船を配船し、当社等の必要在庫が確保できるようにLNGを返却することが条件となります。

液化ガス貯蔵設備の容量等の公表

2. ガス発生設備におけるガスの製造の余力の見通し

通年
60 t/h

※上記製造余力は、過去の実績を元に、今後の需要予測を考慮して算出した気化器の余力であり、参考値といたします。

3. 利用することができる船舶の種類及び船型並びに液化ガスの種類及び品質

①船舶の種類及び船型

船型		サイズ
メムブレン型		21万m ³
モス型	従来型タンクカバー	17.7万m ³
	連続型タンクカバー	18万m ³

※最終的には船陸整合の確認を以って判断いたします。

また、上記は、着棧可能な最大船型であって、揚げ荷量は別途協議といたします。

液化ガス貯蔵設備の容量等の公表

②液化ガスの種類及び品質

項目	内容	備考
熱量※	42.0～ 45.4 MJ/m ³ N	※受入可能なLNG熱量は利用条件により異なるため、参考値とする。
代表組成	メタン、エタン、プロパン、イソブタン、 ノルマルブタン	主に左記の成分で構成されていること。
	窒素濃度 1.0 mol%以下	0.3 mol%を超える場合は別途事前協議を行うこと。
成分等	固形物またはその他の不純物および異物を含まないこと。	

4. 配船計画の策定期間の見通し

配船計画一次案	前年7月末
年間配船計画策定期間	前年12月～3月ころ